

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

人類に奉仕するロータリー  
Rotary Serving Humanity



活動するロータリー  
Rotary Acting

国際ロータリー会長 ジョン F. ジャーム 2016～2017 富津中央RC会長 榎本 守男  
国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12  
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

## No.2477 第31回例会 2017. 3. 16 晴

点 鐘： 榎本 守男 会長  
進 行： 須藤 隆 副SAA  
ソング： 手に手つないで  
黙 禱： 岡田良弘会員の父君・岡田藤夫  
元富津クラブ会員のご冥福を祈る。

### 会長挨拶

榎本 守男 会長



皆さん、こんにちは

今日は、暖かくなりました。春はもうそこまで来ています。

まず訃報です。

岡田会員のお父上、岡田藤夫様が去る3月13日ご逝去されました。富津クラブに所属されていたベテランロータリアンでした。

ロータリーにおいても役職を歴任され地域に貢献された温厚な方でした。ご冥福を祈って黙禱をします。黙禱 ありがとうございます。

3月11日、君津クラブ創立45周年記念式典に渡辺幹事と二人で出席しました。シティの和田会長、緒形幹事と合同例会の打合せの為、少し早めに会場に集合しました。

式典・祝宴とも盛大でいい雰囲気で行われました。入会5年未満の若い会員が多く、クラブの勢いを感じました。

2770地区パストガバナー中村靖治様の講演があり、演題「変化への対応と挑戦」でした。スピーチ終盤のロータリー入会までの苦労話を興味深く拝聴しました。

中村パストガバナー曰く「婿には2種類ある。いてくれ婿とおいてくれ婿です。私は当時、職もなく女房の家に転がり込んだ“おいてくれ婿”でした」と話されました。それから、ロータリー入会までの経緯は、「奥様の実家は、食堂だったのでロータリーの例会食の仕出しをしており、毎例会、自分が配達して、片づけ、器の回収をしていた」そうです。その時のクラブの会長が「そのまま例会の終わるのを待って回収した方が効率的だろう」と配慮してくれて後ろに座って見学していたそうです。

数年経過したのち会長からロータリーに入会しないかとお誘いがあり、義父に話したら「とんでもない」と言われ断ったそうですが、7年目でやっと許可が下りたそうです。その時は、7年間例会に出席していたのでロータリーの知識は誰よりも身につけて

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3  
いち川旅館 Ichikawa ryokan  
841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,  
Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178  
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>  
Mail [home@futtsuchuo-rotary.org](mailto:home@futtsuchuo-rotary.org)



いたそうです。

このお話を聞いて、誰もさまざまな経緯でロータリーに入会され、今こうしてあることの縁を強く感じました。機会があれば、講師の中村パストガバナーとは盃を交わしながらお話を伺いたいと思いました。以上会長挨拶でした。

今日の予定は、志波会員の卓話です。よろしくをお願いします。

## 幹事報告

渡辺 哲夫 幹事



1. 木更津RCより、例会変更のお知らせが来ております。

日時 3月30日(木) 休会  
(定款第6条第1節c項)

2. 上総RCより、例会変更のお知らせが来ております。

(1) 日時 3月23日(木) 点鐘18:30  
場所 旅館かわな  
内容 君津RCとの合同例会のため。

(2) 日時 3月30日(木) 休会  
(定款第6条第1節c項)

3. 袖ヶ浦RCより、例会変更のお知らせが来ております。

日時 4月3日(月) 休会  
(定款第6条第1節c項)

4. 上総RCより、会報が届いております。  
(回覧)

## 連絡事項

富津シティRCより、合同例会の日程の連絡がありました。

日時 5月31日(水) 点鐘17:30  
場所 ひろ寿司

## 委員会報告

白石 幸久 プログラム担当部長



次週のプログラム「仏母寺禅体験」について

- 時間が30分繰り上がり12時点鐘となります。
- 坐禅に適する柔らかな服装が良いと思います。

## 炉辺会合第3班報告

高橋 裕之 会員



第3班は、3月12日(日)に『ぎょさん』にて炉辺会合を行いました。今回のテーマが『奉仕活動について』という事でしたが、参加者の皆さんからは、新しい社会奉仕活動を探したいと意見が多数でした。具体的には、自分たちが主体の活動だけでなく、他の団体や個人を支援する形の社会奉仕も良いのではないだろうかという事でした。

例えば、教職員退職者のなかに、定年退職後に無償で子供達に勉強を教えている方がいるが、このような活動にロータリーで支援する事は出来ないかという意見がありました。ロータリー単独での奉仕活動以外の形を模索するのも良いと思います。

また、奉仕活動を実践する為には、やはり増強は必須であるという意見も多かったです。新しい会員が入る事により、より多様な奉仕活動も見いだされる事でしょう。

参加者は、榎本会長、渡辺幹事と、平野、山田、

若鍋、栗原、高島、千葉、大網、白石廣、高橋、各会員でした。もちろん会議後は、十分に親睦を図った事は、言うまでもありません。

## 塩山 RC 創立45周年式典について

高橋 裕之

3月25日(土)の塩山訪問について、参加者と訪問方法が決定しました。

参加者は、榎本会長、渡辺幹事、小野ガバナー補佐、須藤分区幹事夫妻、石渡会長エレクト夫妻、平野副幹事、大網奉仕プロジェクト委員長夫妻、白石幸久プログラム担当部長夫妻、若鍋米山担当部長、多田会員、高橋の計16名です。

8:00に大貫駅東口ロータリーを出発し、石渡宅前、大網宅前、高島宅前と、バスでピックアップしながら塩山に向かいます。

## 奉仕プロジェクト財団セミナー

大網 庄一郎 奉仕プロジェクト委員長



2017～2018年度地区ロータリー財団・奉仕プロジェクトの補助金に関する合同セミナーが開催されました。

日時 2月4日(土)

出席者 石渡 鋼 会長エレクト

大網 庄一郎 奉仕プロジェクト委員長

### 1. テーマ

「元気なクラブを目指して一歩踏み出そう、奉仕活動へ」

### 2. 主な議題

#### ① 地区補助金申請の手続きについて

本セミナーに出席したクラブは、次年度の地区補助金の申請をすることが出来る事になりました。

## ② 特別講演

ポリオの明日・撲滅について

講師 松本 裕二氏 (医師)

島根県 益田ロータリークラブ

※ 各クラブには募金に協力して欲しいとの要請があった。

## 50周年記念誌について

須藤 隆 50周年記念誌編集委員長



昨年12月から記念誌への原稿をお願いしてありました。全員を対象としたプロフィールについては現在24名の方から原稿お頂き、ここ数か月、例会に出席されていない方には手紙でお願いしました。記念誌が出来上がるのはおそらく、今年度いっぱい、またはそれ以上かかるかもしれません。プロフィールについて、まだ提出されていない方は、ご協力をよろしくお願いいたします。

また、20年以上在籍の方にはできるだけ投稿をお願いしてありますが、私の手元に届いているのは今のところ3名の方ですので、もう少し原稿が届くの待ちたいと思います。

それと皆さんから提出されたプロフィールの「自己PR一言について」、1頁に二人分を掲載できるようにと文字数を制限させていただきましたが、かなり文字数がオーバーされている方もおり、その原稿については文意を変えない範囲で編集員の判断で訂正させていただきますのでご承知ください。



## 国際奉仕委員会

石渡 鋼 国際奉仕担当部長



連絡事項 例会後嘉義南クラブ訪問の相談をします。参加希望されている方はお残り下さい。

結果報告 訪問日は5月12・13・14日  
希望者あれば15日

## 会員卓話

志波 克 会員



### 「LIFE SHIFT」を読んで

ロンドン・ビジネススクール教授のリンダ・グラットンとアンドリュー・スコット共著、池村千秋訳の「100年時代の人生戦略」という本を読みました。

過去200年間平均寿命は10年に2年以上の割合で延びてきて、今日本で生まれた子供の半分は107年以上、50歳未満の日本人は100年以上生きる時代、即ち100年ライフを過ごすことになる。この長寿化の負の側面を克服し、長寿化の恩恵を生かしながら人生を恙なく過ごすことについて書かれています。

すっかり理解出来ませんでしたので、金銭面の対処についての一部を話します。

因みに、現在日本人男性の平均寿命は81歳弱、

女性は87歳弱ですが、平均寿命というのは0歳児の平均余命のことです。平均余命とはある年齢の人々がその後何年生きられるかという期待値ですので、平均寿命81歳とは、0歳児の半数以上は81歳まで生きると言うことです。そして日本では平均余命が10年で約3歳ずつ伸びています。

人生が短かった時代には、「教育→仕事→引退」という3ステージの生き方で良かったのです。例えば、男の平均寿命が70歳だった昭和50年には、教育20年、仕事40年、引退10年で、10年間を年金と仕事期間の蓄えで暮らせれば良かったのですが、100年ライフとなると仕事期間も増える筈ですが、引退期間も増えます。そして、仕事は時代と共に変化しますので、それに対応する移行期間も必要になります。と言うことで、計画的な蓄財が必須となります。目標は最終所得の50%の生活資金の確保です。

蓄財と言えば、まず定期預金です。積立定期を長年続ければ良いことは、数学的に自明です。ところが人間には「現在バイアス」というものがあって、貯蓄を先送りしてしまいます。丁度ダイエットを決心して、とりあえず今は目の前のケーキを平らげるようなものです。目先の消費という快感を味わうために貯蓄を先送りしてしまうのです。

貯蓄を継続する為の名案は、毎月一定金額を普通預金から定期預金に移すよう銀行に依頼することです。一旦自動で積み立てする仕組みを作ると「現状維持バイアス」が働いてそのまま放置する様になります。つまり計画通り貯蓄が行われます。昇給時に昇給の範囲内で掛け金が上がるようにしておけばなお結構です。

蓄財のもう一つは株式投資です。これにはある程度の金融リテラシー（お金に関する知識・判断力）が必要です。そこで簡単な金融リテラシー・テスト。

1. あなたが銀行に10,000円預けていて、利息は年に2%だとする。預金を引き出さない場合、5年後にはいくらになっているか？
2. 預金の利息が年に1%で、インフレ率が年に2%だとする。1年後、あなたがその口座のお金で買えるものは増えるか、変わらないか、減るか？

3. 「一つの企業の株式を購入することは、投資信託を買うより一般に安全性が高い」—この主張は正しいか、間違っているか？
4. 「15年ものの住宅ローンはたいてい、30年ものの住宅ローンに比べて月々の返済額は多いが、返済する利息の総額は少なくて済む」—この主張は正しいか、間違っているか？
5. 金利が上昇したとき、債券の価格はどう変動するか？

答 1. 11,000円あまり 2. 減る 3. 間違い  
4. 正しい 5. 下がる

5問全て正解なら、あなたの金融リテラシーは、上位4分の1に入ります。株式投資の場合は、十分な分散投資を心掛け、仲介業者への手数料には十分な注意を払いましょう。

お金に関する分析能力が最も高いのは40代後半から50代半ばとの調査結果があるので、高齢になり判断能力が衰え始めてから、貯蓄不足に対する策を練るのは賢明ではありません。

リア王の反省ではありませんが、高齢の親が多くの資産を持っている場合は、親子が接触する機会がずっと多くなる傾向があるそうです。

多くの資産を持ち、同時に幸福を生む最大の源である無形の資産、つまり家族や友人との関係、それに好奇心や情熱、を大事にして100年ライフを楽しみましょう。

以上纏まりませんが、ご紹介まで。

## ニコニコ BOX

鈴木 勉 親睦担当部員

白石 幸久 老いて疲れましたが、一息つけそうです。

\*編集者追記 (ますます盛ん?)

## 出席報告

志波 克 出席担当部員

区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	31/27	14	13	2	59.26%
前回	31/28	20	8	4	85.71%
前々回	31/29	23	5	1	82.76%

## 会員卓話 (先週分)

大網庄一郎 会員



BS・日本テレビ(4チャンネル)

毎週月曜日夜9時~10時放送

BS 日本の心の歌

コーラスグループ名 フォレスト

メンバー

男声 6人

女声 6人

ピアノ 3人

の混声コーラス



全員が音大卒、中には芸大首席卒業も居る。時代とともに生まれた名歌名曲をフォレスト独自の音楽性によって全国的に幅広いファンによって支えられている。

私とフォレストとの出会いは昨年11月、東京浜松町のメルパルク(旧郵便貯金ホール)でのテレビ番組撮影コンサートへ行ったときからで、歌の合間に客席の様子も撮影されました。そしてコンサート終了のあとディレクターより何月何日テレビ放送されるので観てくださいとの話があり、その日を楽しみに待っていました。

その当日テレビを見てびっくり、私と女房がくっきりと映し出されていました。テレビが終わって感激していると、我が家の電話のベルが鳴りだしました。何と千葉前会長からでした。「テレビに映ってました

ね。どこに行かれたんですか」とのこと、事情を説明してお礼を言いました。また翌日高校の先輩・後輩からも同じような電話がありました。それにしても4人の方々はよくも私たちと分かったものだと感心しました。ありがとうございました。

その後、2月16日君津文化ホールでのフォレストのコンサートにも行ってきました。客席1250満席、大変な人気でした。

## 2016-17年度テーマ

国際ロータリー会長 ジョン F. ジャーム  
人類に奉仕するロータリー(後編)

現在、ロータリーはとても大事なときを迎えています。今はいろいろな意味で今後を決定づける歴史的な節目です。私たちは力を合わせ、世界に重要な奉仕を行ってきました。そして、



今、世界の行く末は、私たちのさらなる奉仕にかかっています。世界でもっと大きな「よいこと」の推進力となるために、固い決意と熱意でポリオ撲滅を成し遂げ、勢いをつけてロータリーをさらに前進させながら、これまでの成功をバネに飛躍するときに来たのです。

ポリオ撲滅から私たちが学んだ多くのことの中で、最も大切ながら最もシンプルなこと、それは、ロータリー全体の発展を望むなら全員が同じ方向に進まなければならないということです。クラブ、地区、RIのレベルにおけるリーダーシップの継続は、ロータリーを繁栄させ、その秘めたる可能性を最大限に発揮する唯一の方法です。新会員の入会や新クラブの結成だけでは十分ではありません。私たちが目指すのは、単にロータリアンの数を増やすことではなく、ロータリーによる善き活動をより多く実現させ、将来にロータリーのリーダーとなれるロータリアンを増やすことです。

ポール・ハリスは晩年、ロータリー設立の経緯について振り返り、次のようにつぶやいています。「個人の努力は個々のニーズに向けることができます。しかし、大勢の努力の結集は、人類の奉仕に捧げなければなりません。結集された努力に限界というものはありません」。いつの日か120万人以上のロータリアンが一体となり、ロータリー財団や各自のリソースを駆使して人類への奉仕に取り組むことになろうとは、ハリスも想像しなかったでしょう。そのようなロータリーに対してハリスがどんな奉仕を期待するのか、私たちは想像するしかありません。「人類に奉仕するロータリー」の伝統を継承する名誉を授けられた私たちには、このような奉仕を行っていく責務があるのです

「心をこめて」



春来たり